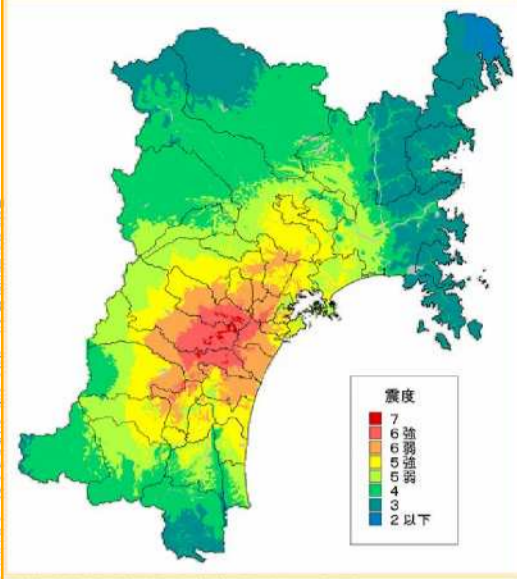


# 大郷町地震防災マップ

## 揺れやすさマップ

＜長町－利府線断層帯による地震の場合＞

宮城県全体のマップ



### この「揺れやすさマップ」は

○この揺れやすさマップは、活断層の地震である長町－利府断層の地震を想定した場合の震度分布を、100メートルメッシュ毎に表示しています。

○長町－利府断層は、仙台市から利府町にかけて、ほぼ南北に延びる長さ約40kmの活断層です。約3000年に一度程度の割合で繰り返し地震を起こし、前回の地震は約2000年前ではなかったかと言われています。マグニチュード7.1を想定しています。

○地震による被害の軽減のためには、住宅等の耐震化を図ることが大切です。そのために、地震の大きさと揺れによる建物の危険性をよく知って頂く必要があります。そこで、発生する恐れがある地震による地域の揺れやすさを震度として評価したのがこの「揺れやすさマップ」です。

○ここに示した震度は、地震の規模や震源の距離から予想される平均的な揺れの強さです。地震の発生仕方によっては、揺れはこれより強くなったり、弱くなったりすることがあります。

### 気象庁「震度階級解説表」(下の表)

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/shindokai.html>による

震度階級	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物
0	人は揺れを感じない。			
1	室内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。			
2	室内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。		
3	室内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。恐怖感を感じる人もいる。	棚にある食器類が、音を立てることがある。	電線が少し揺れる。	
4	かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を返そうとする。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類、音階の本体が落ちることがある。床の悪い箇所の多くが揺れ、家具が移動することがある。	電線が大きく揺れる。歩いている人も揺れを感じる。自動車を運転している、揺れに気付く人がいる。	
5弱	多くの人が、身の安全を返そうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。	つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、音階の本体が落ちることがある。床の悪い箇所の多くが揺れ、家具が移動することがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。種まきされていないブロックが揺れることがある。道路に被害が生じることがある。	耐震性の低い住宅では、壁や柱が傾斜するものがある。
5強	非常に恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。	棚にある食器類、書類の多くが落ちる。テレビがから落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。窓ガラスが割れる。一部の扉が開くことがある。	種まきされていないブロックの多くが揺れる。壁や柱が傾斜することがある。多くの窓ガラスが割れる。自動車の運転が困難となり、停止する車が多い。	耐震性の低い住宅では、壁や柱が傾斜したり、壊れるものがある。
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。扉が閉まることがある。	かなりの破損で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	耐震性の低い住宅では、傾斜するものが多い。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が傾斜するものがある。
6強	立っていることができず、はたきと動くことができない。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。扉が閉まることがある。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。種まきされていないブロックのほとんどが揺れる。	耐震性の低い住宅では、傾斜するものが多い。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が傾斜するものがある。
7	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。種まきされていないブロックも傾斜するものがある。	

- 大郷町指定避難所**
- 大郷町立大谷小学校
  - 大郷町立味明小学校
  - 大郷町立粕川小学校
  - 大郷町立大松沢小学校
  - 大郷町立明星中学校
  - 大郷町立大松沢中学校
  - 大郷町乳幼児総合教育施設
  - おおさと児童クラブ
  - フラップ大郷21
  - 大郷町民体育館
  - 大郷町B&G海洋センター
  - 大郷町大松沢体育館
  - 大郷町総合運動場
  - 大郷町中央公民館
  - 大郷町大松沢公民館
  - ふれあいセンター21
  - 大郷町保健センター
  - 大郷町文化会館
  - 大郷町高齢者コミュニティセンター
  - 黒川高校大郷校

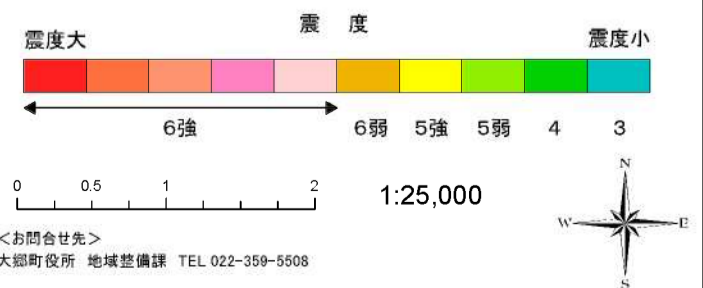
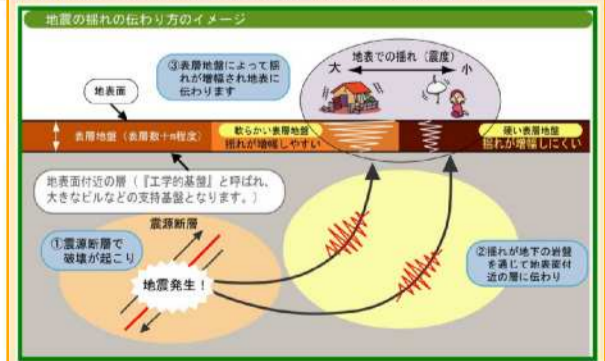
### マップの作成手順

このマップの作成にあたっては、おおそ次のような手順で、震度(揺れの大きさ)を予測しています。

○地域に影響の大きいと考えられる地震(活断層の地震(長町-利府断層による地震)、海溝型地震(宮城県沖地震(単独型、連動型)、どこでも起こりうる直下の地震)を選び、震源となる断層の規模や位置、形状などの情報を設定します。

○それぞれの地震について、地震の規模や震源となる断層までの距離などにより揺れの強さが変わる性質を用いて、「地表面付近(地下の基礎)での揺れの大きさ」を計算します。

○体に感じる「地表での揺れの大きさ(震度)」は、「地表面付近での揺れの大きさ」に「足元(表層の地盤)揺れやすさ」を加味することで求めることができます。一般に、足元の地盤が軟らかいほど、また軟らかいものが厚く堆積しているところほど、地表面では大きな揺れとなる性質がありますので、「震度」が大きくなります。



※地図の図表・解説文は、宮城県建築物等地震対策推進協議会に設置の市町村防災マップ利活用検討ワーキングにおける解説資料から引用しています。  
 ※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25,000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平19総複、第855号)